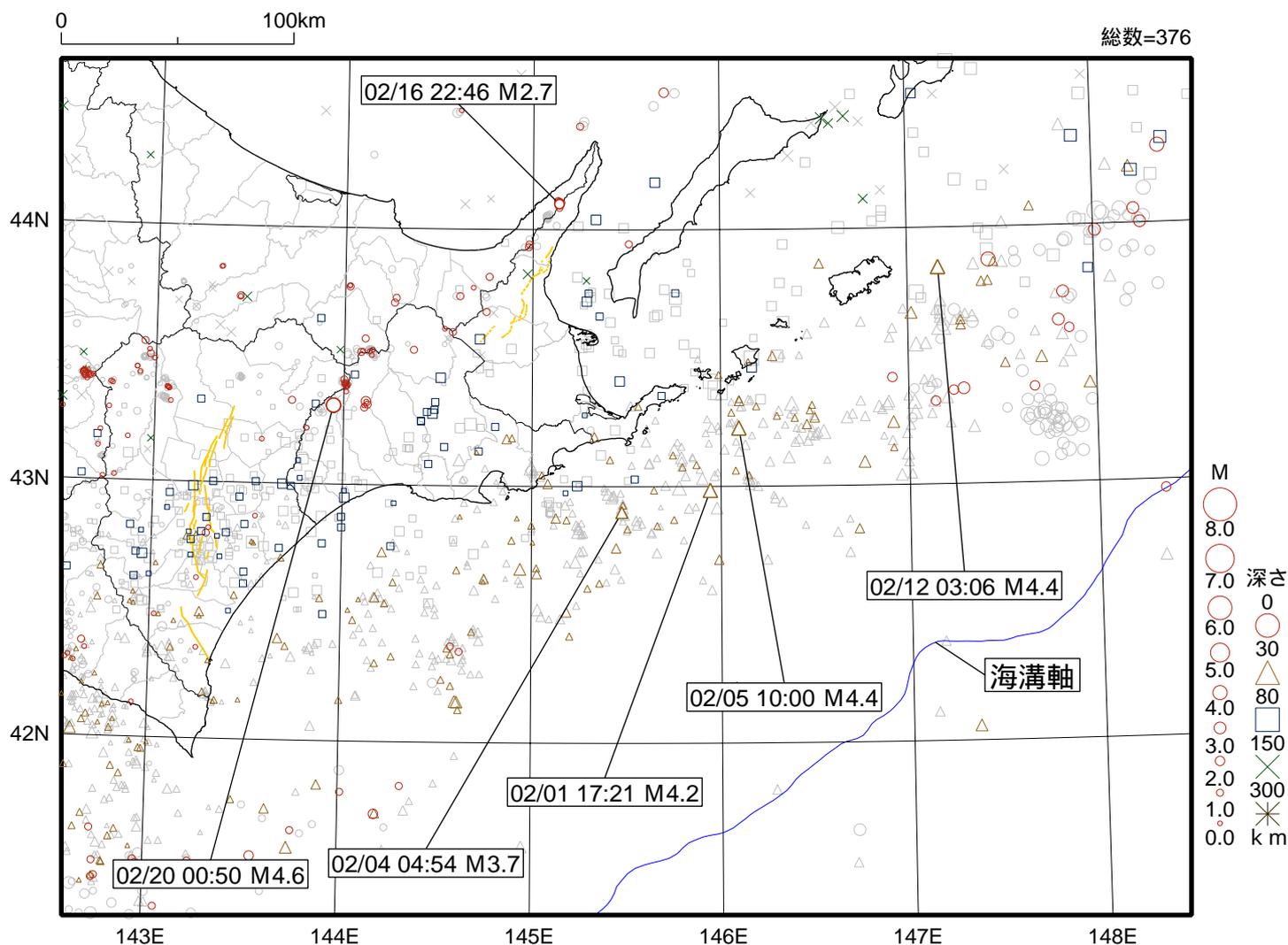


釧路・根室・十勝地方の地震活動図

2020年2月1日～2020年2月29日

震央分布図

釧路地方気象台



これは暫定値であり、データは後日変更することがあります。

記号Mはマグニチュードを表します。

図中橙色の線は地震調査研究推進本部による主要活断層を表します。

過去の地震活動と比較するため、前3ヶ月(今期間を含まない)の震央を灰色のシンボルで表します。

地震概況(2020年2月)

この期間、釧路・根室・十勝地方の震度観測点で震度1以上を観測した地震は9回(1月は12回)で主な地震は次のとおりです(詳細は「震度1以上を観測した地震の表」を参照)。

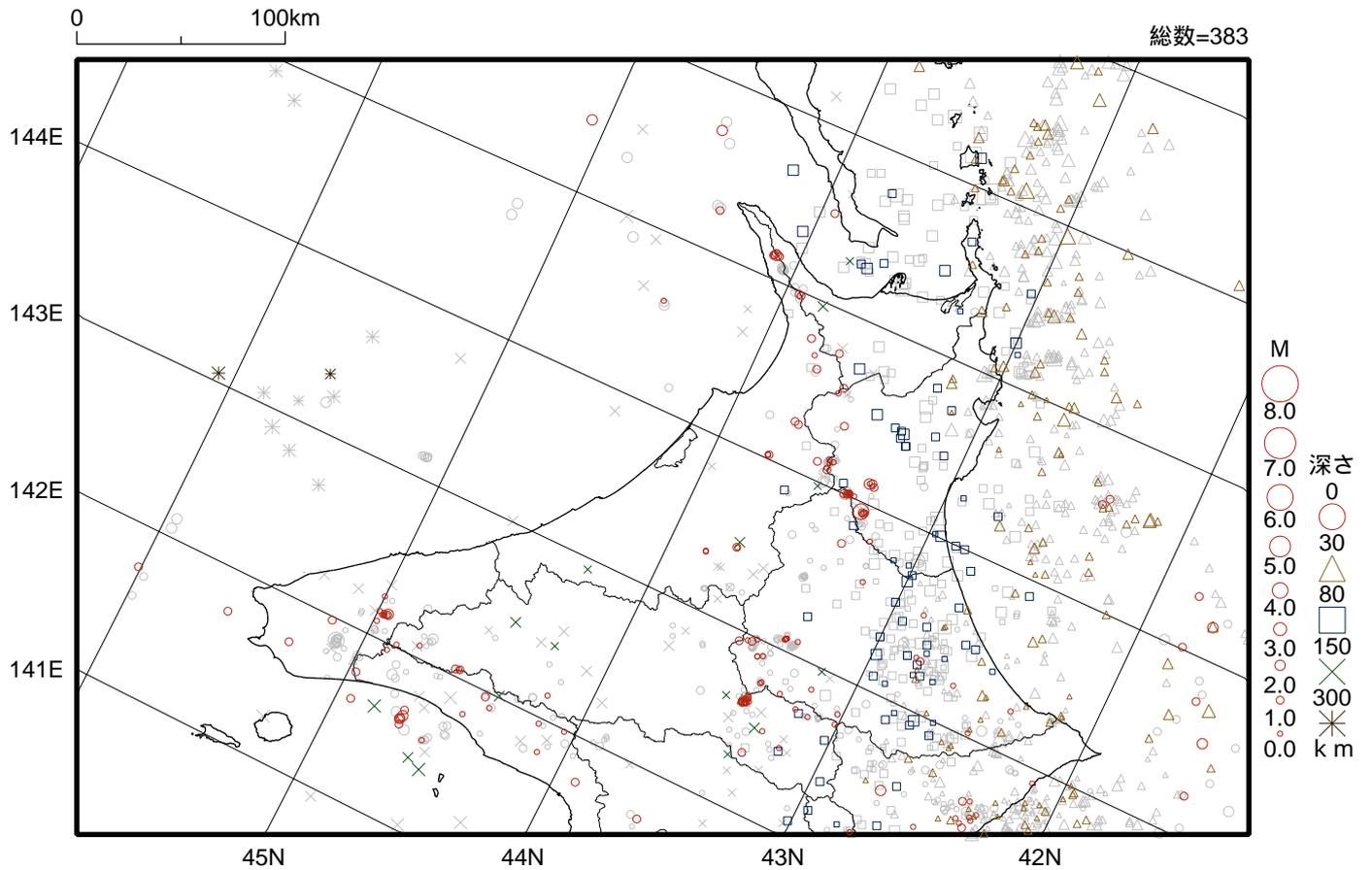
13日19時33分、択捉島南東沖を震源とする地震(M7.2、深さ155km、震央分布図の範囲外)により、標茶町、根室市、標津町、別海町で震度4を観測したほか、釧路・根室・十勝地方で震度3～1を観測しました(「主な地震の解説」参照)。

20日00時50分、釧路地方中南部を震源とする地震(M4.6、深さ5km)により、釧路市阿寒町、足寄町で震度3を観測したほか、釧路・根室・十勝地方で震度2～1を観測しました。

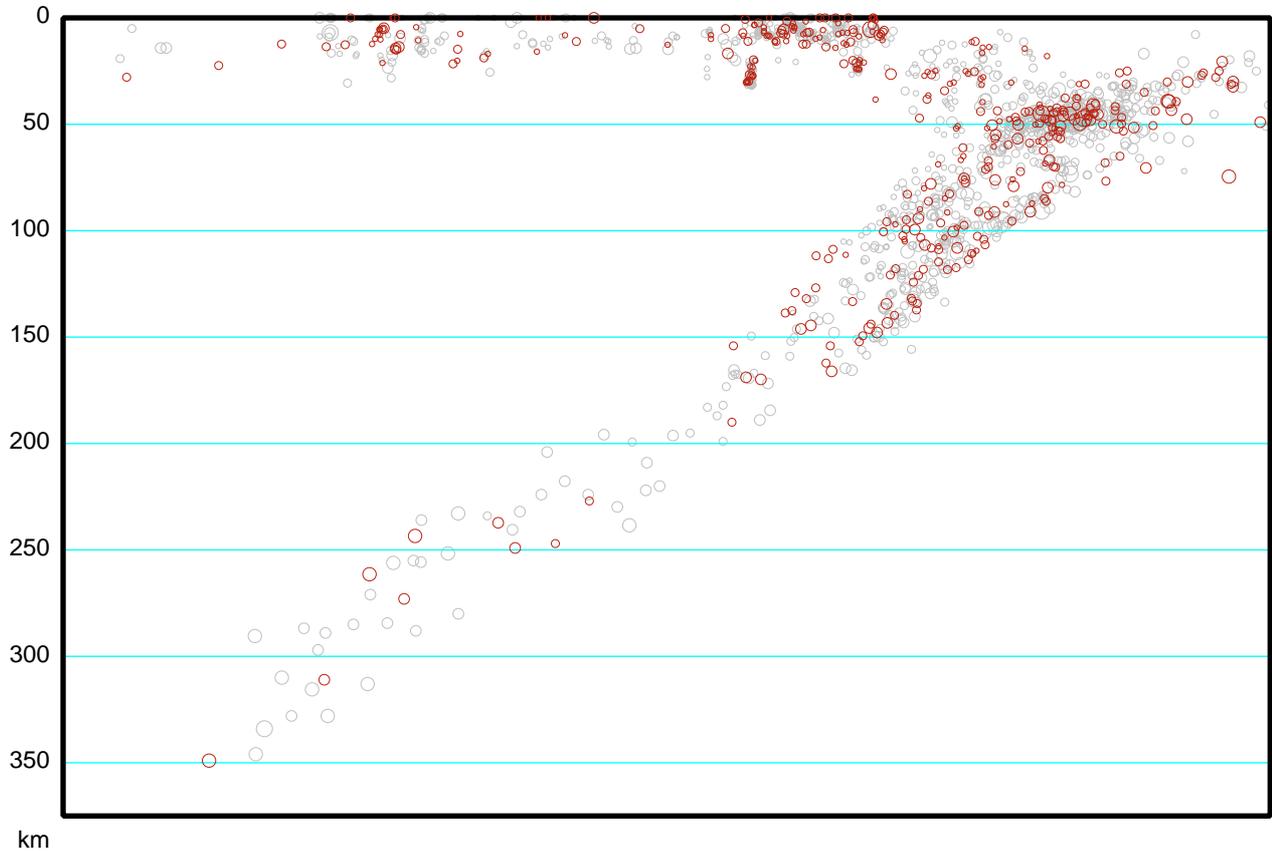
この活動図は、釧路地方気象台のホームページに掲載しておりますのでご利用ください。
ホームページのアドレスは、「<https://www.jma-net.go.jp/kushiro/>」です。

2020年2月1日 ~ 2020年2月29日

震央分布図



断面図



これは暫定値であり、データは後日変更することがあります。
記号Mはマグニチュードを表します。
過去の地震活動と比較するため、前3ヶ月（今期間を含まない）の震央を灰色のシンボルで表します。

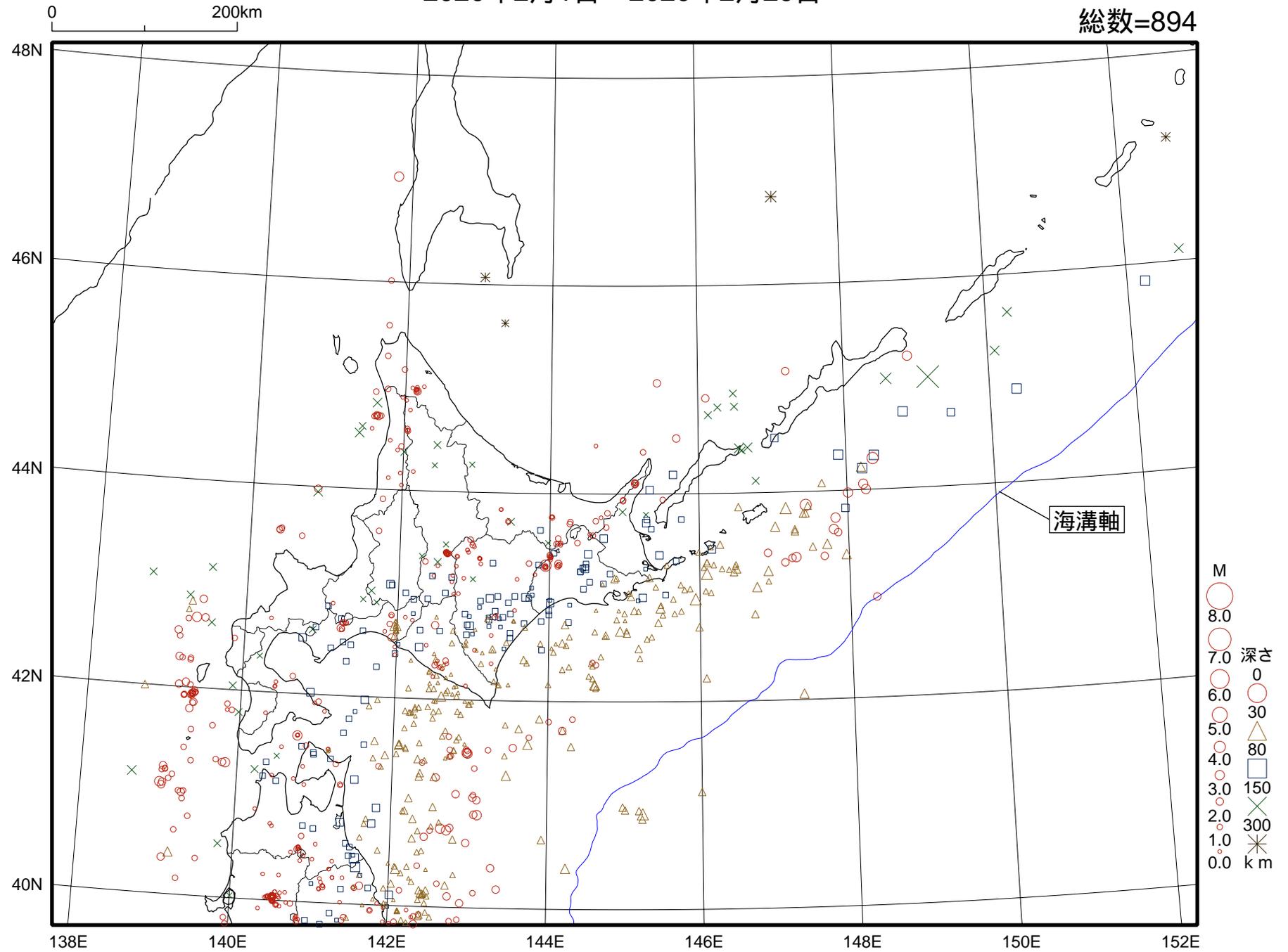
北海道の地震活動図

2020年2月1日 ~ 2020年2月29日

札幌管区気象台

震央分布図

総数=894



震度 1 以上を観測した地震の表 (2020年2月)

年 月 日 地方	時 分 震度	震央地名 震度観測点名	北緯 (N)	東経 (E)	深さ (km)	規模 (M)
2020年 2月 1日 根室地方	17時21分 震度 2 震度 1	根室半島南東沖 根室市牧の内 * (15) 根室市瑠瑠瑠 * (22) 中標津町養老牛 (08) 中標津町丸山 * (08) 標津町北 2 条 * (10) 別海町西春別 * (14) 根室市弥栄 (07) 根室市豊里 (13) 根室市落石東 * (13)	42° 59.0 N	145° 56.5 E	47 km	M4.2
2020年 2月 4日 釧路地方 根室地方	04時54分 震度 1 震度 1	釧路沖 浜中町茶内 * (10) 根室市牧の内 * (09) 根室市厚床 * (12)	42° 53.9 N	145° 28.5 E	45 km	M3.7
2020年 2月 5日 根室地方 釧路地方	10時00分 震度 2 震度 1 震度 1	根室半島南東沖 根室市落石東 * (23) 根室市瑠瑠瑠 * (22) 中標津町養老牛 (05) 中標津町丸山 * (13) 別海町常盤 (06) 別海町本別海 * (07) 根室市豊里 (11) 根室市牧の内 * (11) 根室市厚床 * (07) 標茶町塘路 * (05)	43° 13.6 N	146° 05.7 E	45 km	M4.4
2020年 2月 12日 根室地方	03時06分 震度 1	北海道東方沖 根室市落石東 * (08)	43° 50.7 N	147° 09.9 E	52 km	M4.4
2020年 2月 12日 十勝地方	19時36分 震度 1	胆振地方中東部 新得町 2 条 * (05)	42° 42.0 N	141° 58.5 E	41 km	M4.2
2020年 2月 13日 釧路地方 根室地方 十勝地方	19時33分 震度 4 震度 3 震度 2 震度 4 震度 3 震度 2 震度 3 震度 2 震度 1	択捉島南東沖 標茶町塘路 * (35) 釧路市幸町 (30) 釧路市黒金町 * (32) 釧路市阿寒町中央 * (30) 釧路市音別町中園 * (32) 釧路町別保 * (34) 厚岸町尾幌 (29) 厚岸町真栄 * (32) 浜中町湯沸 (28) 浜中町茶内 * (30) 標茶町川上 * (25) 鶴居村鶴居東 * (28) 白糠町西 1 条 * (30) 弟子屈町美里 (23) 弟子屈町弟子屈 * (24) 弟子屈町サウンチサップ * (22) 釧路市音別町尺別 (23) 標津町北 2 条 * (39) 別海町常盤 (38) 別海町本別海 * (36) 根室市落石東 * (41) 根室市瑠瑠瑠 * (39) 中標津町丸山 * (31) 羅臼町岬町 * (25) 別海町西春別 * (29) 根室市弥栄 (29) 根室市牧の内 * (34) 根室市厚床 * (33) 中標津町養老牛 (22) 標津町古多糠 (23) 標津町薫別 * (23) 羅臼町春日 (16) 羅臼町緑町 * (21) 根室市豊里 (24) 十勝池田町西 1 条 * (26) 浦幌町桜町 * (28) 新得町 2 条 * (20) 足寄町上螺湾 (20) 足寄町南 1 条 * (18) 帯広市東 4 条 (16) 帯広市東 6 条 * (17) 音更町元町 * (16) 十勝清水町南 4 条 (19) 芽室町東 2 条 * (20) 幕別町忠類明和 (17) 幕別町忠類錦町 * (24) 幕別町本町 * (21) 豊頃町茂岩本町 * (20) 本別町北 2 丁目 (22) 本別町向陽町 * (20) 中札内村東 2 条 * (15) 更別村更別 * (18) 十勝大樹町東本通 * (23) 広尾町並木通 (24) 広尾町白樺通 (21) 上士幌町清水谷 * (10) 上士幌町上士幌 * (12) 陸別町陸別 * (05) 土幌町土幌 * (12)	45° 03.3 N	149° 09.7 E	155 km	M7.2
2020年 2月 16日 根室地方	22時46分 震度 1	網走地方 羅臼町緑町 * (07) 羅臼町岬町 * (11)	44° 05.9 N	145° 08.4 E	5 km	M2.7
2020年 2月 20日 十勝地方 釧路地方 根室地方	00時50分 震度 3 震度 2 震度 1 震度 3 震度 2 震度 1 震度 1	釧路地方中南部 足寄町上螺湾 (26) 本別町北 2 丁目 (19) 本別町向陽町 * (15) 浦幌町桜町 * (23) 足寄町南 1 条 * (13) 帯広市東 4 条 (06) 帯広市東 6 条 * (07) 十勝大樹町東本通 * (07) 十勝大樹町生花 * (10) 広尾町並木通 (10) 釧路市阿寒町中央 * (29) 釧路市音別町尺別 (19) 釧路市阿寒町阿寒湖温泉 * (19) 釧路市音別町中園 * (20) 鶴居村鶴居東 * (17) 白糠町西 1 条 * (23) 釧路市幸町 (09) 釧路市黒金町 * (14) 標茶町塘路 * (12) 別海町常盤 (05) 別海町西春別 * (05)	43° 18.4 N	143° 56.7 E	5 km	M4.6
2020年 2月 23日 根室地方 釧路地方	21時57分 震度 2 震度 1 震度 1	択捉島付近 根室市落石東 * (18) 別海町常盤 (09) 別海町本別海 * (06) 根室市牧の内 * (12) 根室市厚床 * (08) 根室市瑠瑠瑠 * (13) 標茶町塘路 * (06)	45° 03.5 N	148° 35.0 E	175 km	M4.9

各地の震度は、釧路・根室・十勝地方のみを掲載しています。

* のついている地点は地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。

地震概況ではセントロイドの深さで表現した地震が含まれている場合があります。

震源の緯度、経度、深さ、規模は暫定値であり、データは後日変更することがあります。

()内の数値は0.1単位の詳細な震度 (計測震度) の小数点を省略して表しています。

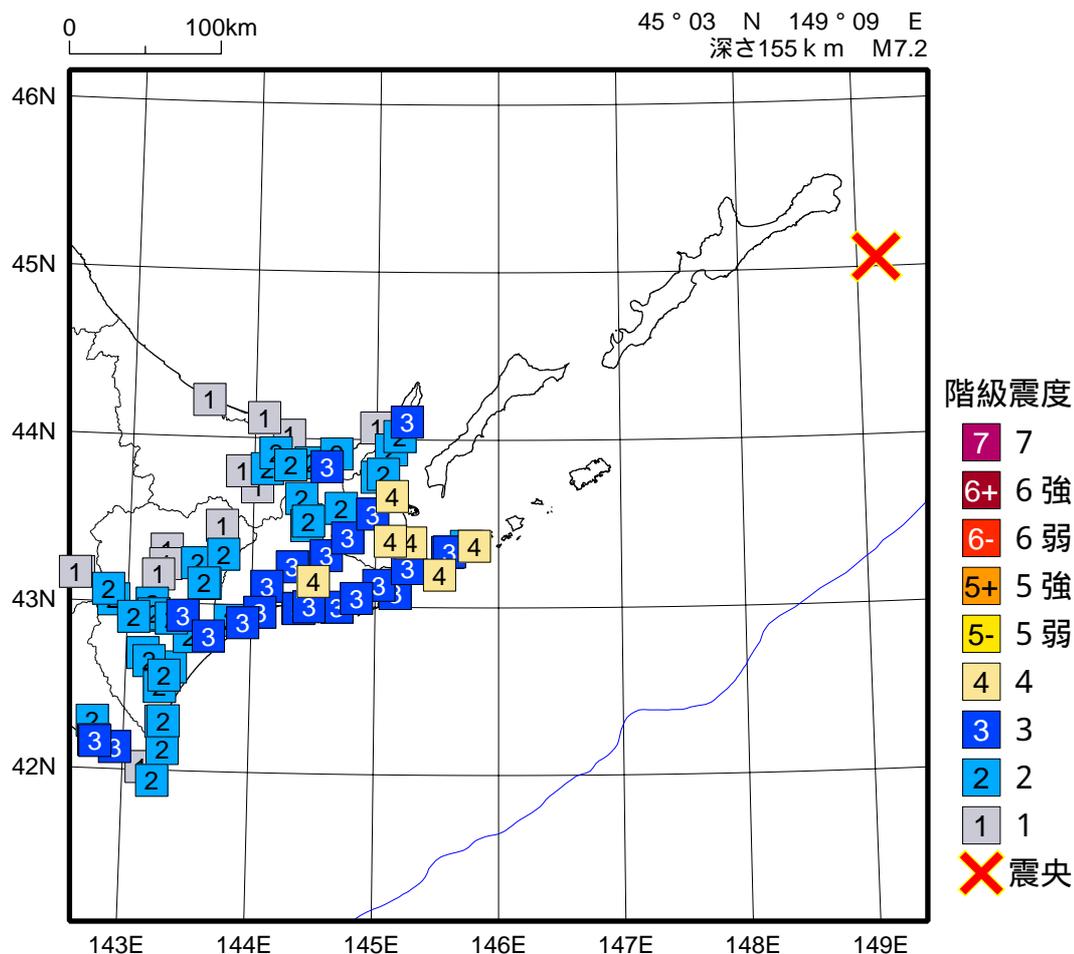
計測震度と震度階級の対応は下表のとおりになっています。

計測震度と震度階級の関係

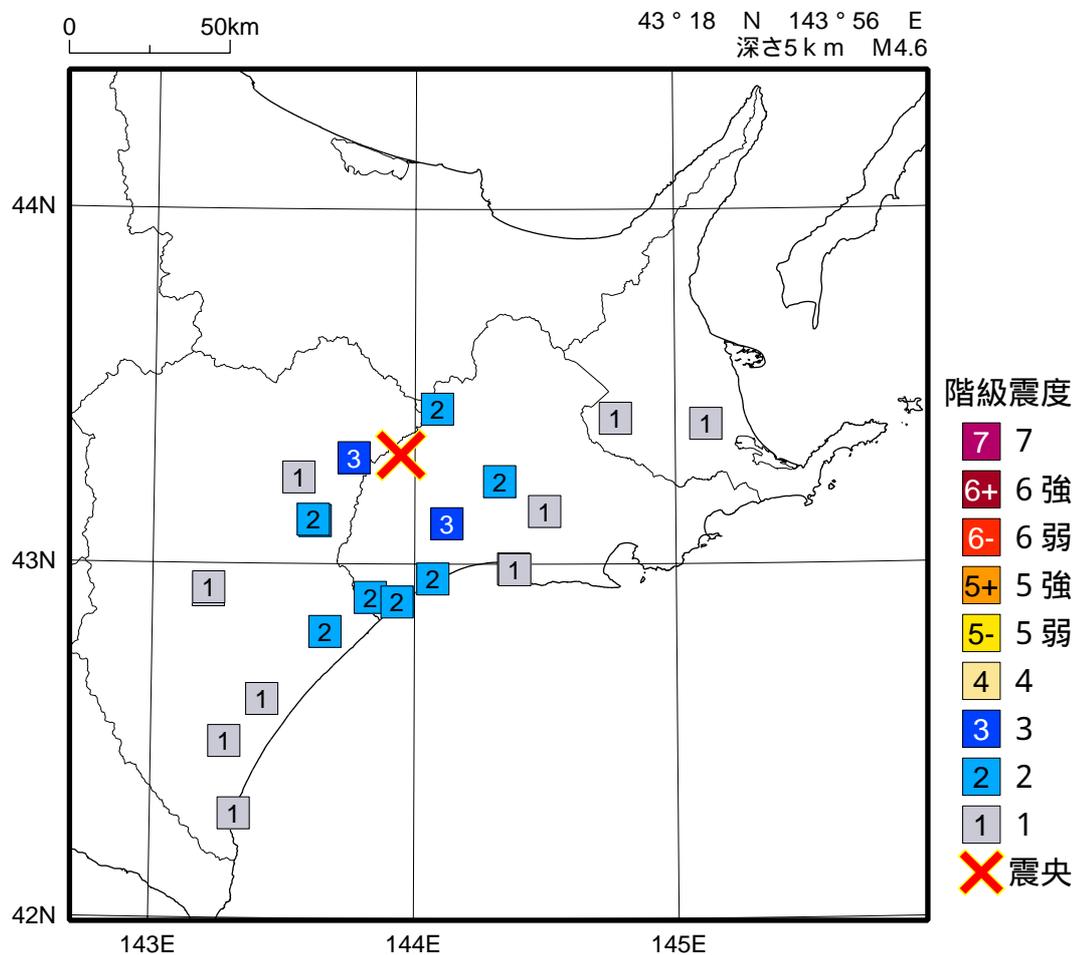
計測震度	~0.4	0.5~1.4	1.5~2.4	2.5~3.4	3.5~4.4	4.5~4.9	5.0~5.4	5.5~5.9	6.0~6.4	6.5~
震度階級	0	1	2	3	4	5弱	5強	6弱	6強	7

本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

2020年 2月13日19時33分 択捉島南東沖の地震の震度分布図



2020年 2月20日00時50分 釧路地方中南部の地震の震度分布図



2月13日 択捉島南東沖の地震

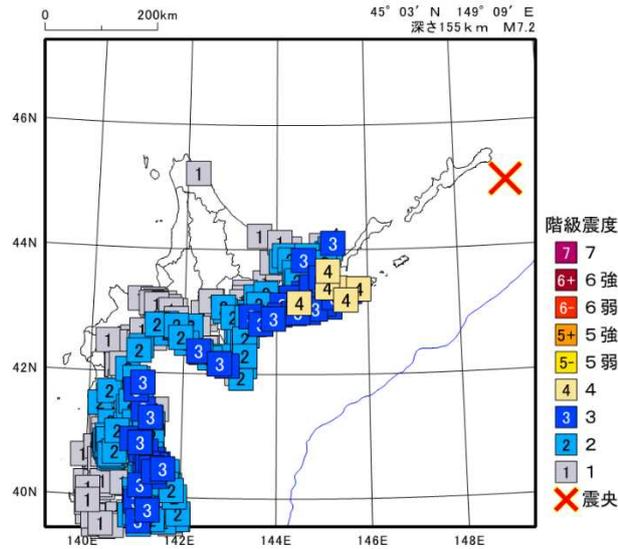


図1：震度分布図

13日19時33分に択捉島南東沖の深さ155kmでM7.2の地震が発生し、標茶町、根室市、標津町、別海町で震度4を観測したほか、北海道では、太平洋側を中心に震度3～1を観測しました(図1)。この地震は、太平洋プレート内部で発生しました。

2001年10月以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺(図2の領域a)では、深さ100kmより深いM6.0以上の地震が時々発生しており、2013年4月19日にはM7.0の地震(最大震度4)が発生しています(図2・図3)。

1919年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺(図4の領域b)では、津波を起こす震源が浅いM8.0以上の巨大地震が3回発生しています(図5)。最大規模の地震は、1994年10月4日の「平成6年(1994年)北海道東方沖地震」(M8.2、最大震度6)で、北海道では負傷者436人、住家全半壊409棟などの被害が生じ(「災害記録 北海道」による)、根室市花咲で168cmの津波を観測しました。

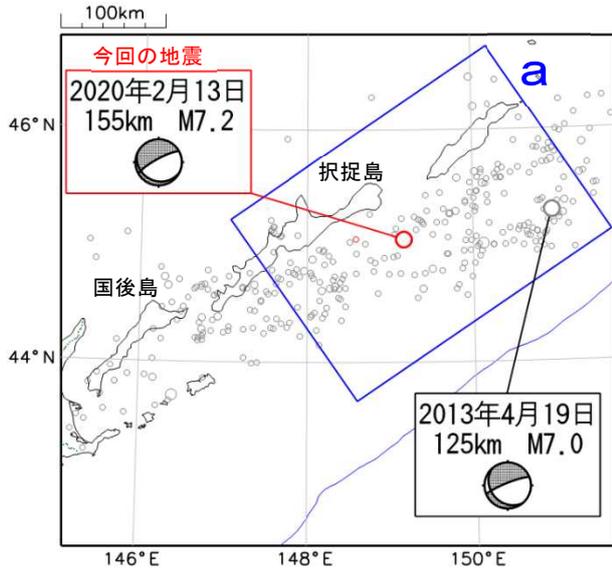


図2：震央分布図

(2001年10月1日～2020年2月29日、深さ100～300km、M≥4.0)
2020年2月の地震を赤で表示
図中の発震機構はCMT解

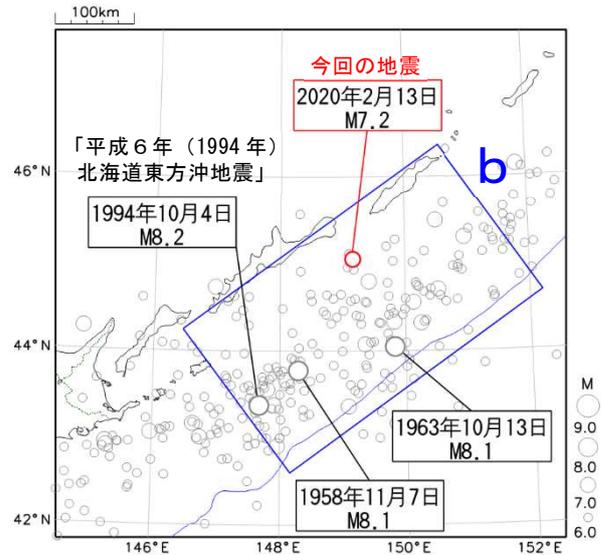


図4：震央分布図

(1919年1月1日～2020年2月29日、深さ0～300km、M≥6.0)

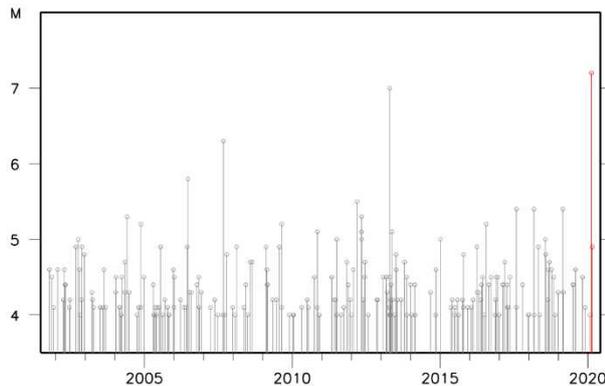


図3：領域a内の地震活動経過図

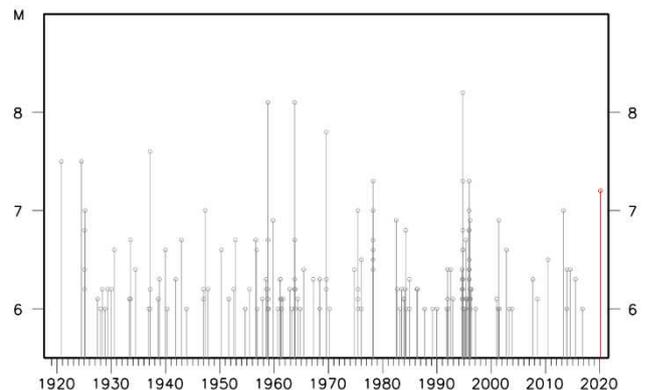


図5：領域b内の地震活動経過図

【防災メモ】

～ 陸域の浅い地震 ～

日本列島周辺では、複数のプレートがぶつかりあっており、岩盤の中に大きなひずみが蓄えられています。そのため、陸と海のプレート境界や海のプレート内のほか、陸のプレート内の浅い所（深さ約20kmより浅い所）でも多くの地震が発生します。これを「陸域の浅い地震」と呼びます。

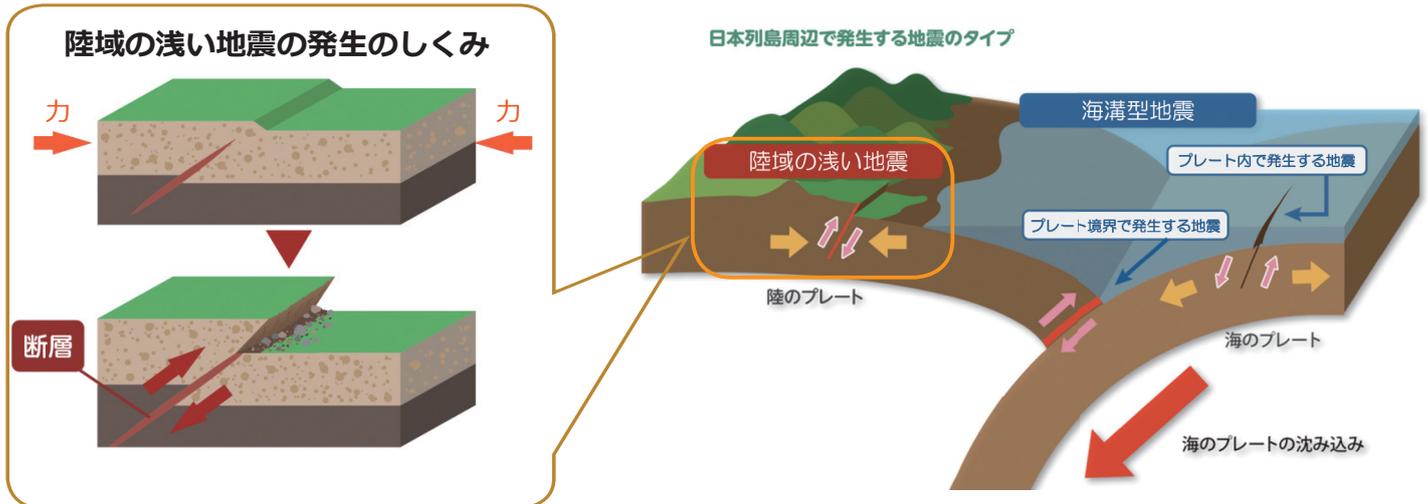


図1：陸域の浅い地震の発生の仕組み

過去に繰り返し地震を起こし、将来も地震を起こすと考えられている断層は「活断層」と呼ばれています。規模の大きい地震が発生する可能性がある主要な活断層については、政府の地震調査研究推進本部によって、将来の地震発生予測や規模の長期評価が行われています。

(https://www.jishin.go.jp/evaluation/long_term_evaluation/major_active_fault/)

陸域の浅い地震は、現在確認されている活断層だけで起こるとは限りません。断層のずれが地表に現れていなかったり、地表に現れていたが浸食や土壌の堆積により、その痕跡が不明瞭になった等の理由で確認されていない断層が多数存在すると言われていています。北海道地方でも活断層が確認されていない場所で被害を伴う地震が数多く発生しています。陸域の浅い地震は日本中のどこで発生しても不思議ではありません。

また、陸域の浅い地震は海域の地震と比べて、震源と居住地との距離が近いいため被害が大きくなりやすいという特徴があります。

震源に近い地域では緊急地震速報が間に合わず、発表前に強い揺れに見舞われることもあります。

これらのことから、陸域の浅い地震に対しては日頃からの備えが重要です。

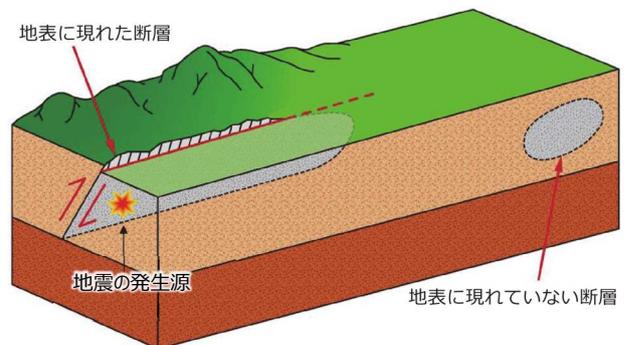


図2：地表に現れていない断層

(図1、2はリーフレット「活断層の地震に備える」(文部科学省・気象庁)より)

https://www.jma.go.jp/jma/kishou/books/katsudansou/katsudansou_hokkaido.pdf)